

前を向き続けること

高崎市立吉井中央中学校

三年 山崎 琴美

皆さんは、人と比べて落ち込んだり、みんなと同じ様に努力したのに自分だけ結果が出なくて悲しくなったりしたことはありませんか。そんな時は自分を責めたり、自分をだめだと決めつけたりせずに、今日の私の話を思い出してほしいと思います。

私は小学校五年生の時に、発達支援センターでウィスクという知能検査を受け、学習障害であることがわかりました。学習障害というのは、知的発達の遅れや視覚・聴覚機能に問題がないにも関わらず、読む、書く、計算するなど特定の領域だけ極端に苦手という特徴のある障害です。

診断された時、嫌な気持ちよりも少し救われた気持ちになりました。なぜなら、今まで自分に出来なかったことは私の努力が足りなかったわけではなくて、脳

の特性だという事がわかったからです。

人によつては「障害を持っている人と、そうでない人を分けるのは良くない」と考える人もいますが、私はそうは思いません。自分に合わない努力を無理にやるよりも、自分の特性を周りにも理解してもらうことで、私なりの方法で努力し成長することができからです。

例えば、私の苦手な事は漢字を書いて覚える事なのですが、小学生の時、漢字を何度も繰り返し書く宿題がありました。私の脳は「書くこと」と「覚えること」は別のため、書くということがただの手の運動になり、書き終えれば宿題をやった満足感はあるのですが、覚えていたのは十個あるうち、一番簡単な漢字一個でした。そのため母が、先生に事情を説明し、ふりがなを見て、漢字を思い出しながら数回書くという方法に変えてもらったことで、書く回数は減らしたのに覚えられる量が増えました。この宿題を出した先生は、子どもの頃書いて覚え、よい点を取った成功体験があるのかもしれない。しかし、私には全くあてはまらな

ったわけですから。その時、私は「自分の特性を知ることができてよかった」と思いました。

また、小学生の時、早く計算が終わると、ミニ先生をする算数の授業がありました。周囲の友達が立ち上がりうろうろしているのが目に入ると、周りが早く終わっていることに焦りを感じ、頭の中が真っ白になり、何を考えているのかわからなくなり、ただそこにいることが苦しかったのです。ですが今では授業中にわからなかった所を放課後先生に聞きに行き、一対一でじっくりと、教えてもらいながら取り組むことで、平均点をとれるようになりました。

また、勉強だけではなく生活面でも、みんなには簡単に理解できる内容でも、私には理解できず聞き返してみると変な顔をされるので、違ったんだなとわかることもあります。そんな私にも得意なことがあります。それは、小さい子の面倒を見るのは得意で、小学生低学年以下の子どもには例外なく好かれるので、まるで保育園のように何人でも何時間でも、面倒をみることができます。プリントや宿題は言われるまで思い出せ

ないのですが、雨の日も風の日も、これまで5年間、毎日一時間の犬の散歩は忘れたことはありません。

思っていることや自分の気持ちを友達に隠せないけど、正直で優しい友達とは長年付き合うことができます。

私が言いたいことは、誰が特別で、誰が劣っているということでも、同じ努力をすれば同じ結果が出ると約束されているものでもなくて、人それぞれ特性があり、それぞれの方法が見つかれば人は成長することができるということです。私はこれまで苦手なことも、辛いことも多かったけれど、何とか前を向いてあきらめなかったことで、得意な事にも気付くことができました。

皆さんもそれぞれに苦手なことに苦しむことや落ち込むことがあるかもしれないけれど、そんな時にはこんな人がいたなあと私のことを思い出してほしいです。